

平成25年度

「高校生による、子どもの読書活動アシスト」

記 録 集

青森県立図書館

「高校生による、子どもの読書活動アシストについて」

図書館員と高校生ボランティアが協力し、子ども達への読み聞かせやペープサート作りなどするというイベントでのこと、高校生のお姉さん、お兄さんの「読み聞かせ」や、一緒に工作をする子どもたちの姿は、明るく、楽しさにあふれた笑顔でいっぱいでした。また、最初は照れていた高校生が、子ども達に接するうちに、積極的に声をかけ、工夫して教えるようになっていく姿は、将来の青森県を担ってくれるだろう、とても頼もしい姿でした。

子どもと本を繋ぐ、もっと「楽しい!」と思ってもらえる活動をしていけないだろうか、高校生に、社会活動、ボランティア活動の場を提供していけないだろうか、昨年、本事業は始まりました。

活動は、児童室で毎月実施しているテーマ展示のディスプレイ作成で、去年は、県内8校から参加があり、本年度も8校、計10回の参加がありました。どの作品も、それぞれ工夫をこらし、子ども達のためにと心が込められたもので、本の世界を彩る魅力にあふれ、子ども達の世界を更に大きく、深く広げてくれました。

昨年度の作品は、本年、青森市内の保育園、小学校でも飾られ、高等学校と図書館の輪が、保育園、小学校へと広がりました。

当館では、この事業が、地域が連携して子どもたちの成長を支える強い絆となるよう、「つながる図書館」「つなげる図書館」を目指して、子どもたちに本の魅力を伝え、子どもの読書活動の一層の推進を図って行きたいと考えています。

また、この事業を通じて、朗読イベントやおはなし会に参加していただいた高校もありました。社会活動やボランティア、就業体験のきっかけとなる場を提供することは、生涯学習施設である図書館の重要な役割の一つです。今後も、積極的に取り組んで行きたいと考えています。

青森県立図書館長

～目次～

7月 テーマ「おべんとう」	5
8月 テーマ「きょうだい」	8
9月 テーマ「おおかみ」	11
10月 テーマ「おんがく」	14
12月 テーマ「クリスマス」	19
1月 テーマ「うま」	22
2月 テーマ「きつね」	25
みんなで児童室をきつねでいっぱいにして	28
ディスプレイの貸出について	31
【記事紹介】東奥日報で紹介されました。	33
◆関連事業◆ 朗読会及びおはなし会の記録	34
青森県近代文学館 企画展「北畠八穂生誕110年」記念 5月のおはなし会～青森県を代表する児童図書作家たち～	35
青森放送アナウンサーと高校生による夏休みおはなし会	36
青森県近代文学館 特別展「寺山修司没後30年」記念 寺山修司作品朗読会	38

7月

【テーマ】 「おべんとう」

【展示期間】 6月28日～7月24日

【担当校】 青森中央高等学校

【図書館での資料展示】

『なんじゃもんじゃはかせのおべんとう』(長新太/さく 福音館書店 2009) や『にんじゃべんとう』(木坂涼/文 いりやまさとし/絵 教育画劇 2012)、 『おでかけのまえに』(筒井頼子/さく 林明子/え 福音館書店 1981)、『コンビニ弁当16万キロの旅 食べものが世界を変えている』(千葉保/監修 コンビニ弁当探偵団/文 高橋由為子/絵 太郎次郎社エディタス 2005)、『おべんとうをつくろう!』(碧海酉葵/文 五味恭子/文 松田直子/文 落合稜子/絵 田中恒子/絵 復刊ドットコム 2012) など、お弁当を持ってお出かけしたくなるような本や紙芝居を紹介しました。



●青森中央高等学校●

【チーム名】 青森中央 Girls& Boy (12名)

【担当の先生】 木下 和子 先生

【希望のきっかけ】 昨年度もこの活動に応募しました。昨年度は、ディスプレイされてからの反省点もあり、もう一度チャレンジしたいと思い、応募しました。

(※昨年度は、2月「ひっこし」で参加してくれました。)

【担当してくれた皆さんから】

“チームについて”

総合学科で保育に関する授業を受けているメンバーです。

それぞれに顔をつけて可愛らしさを出しました。

反転させるのを失敗して、作り直したりしました。

卵焼きのうずが難しかったです。

おにぎりの顔がかわいく出来て、うれしかったです。

スプーンの影をどうするのか考えるのが難しかったです。

水筒の色使いが難しかったです。

両面にあわせて作るのが難しかったです。

それぞれ作るのが難しかったり、前回と比べて両面で作らなければならなかったのも、その部分を失敗してしまったりしました。でも、何もないところから作り出すのはとても楽しく、見てくれるであろう子どもたちの様子を思い浮かべながら作りました。また、機会があったら参加したいです。

●ちょこっとエピソード●

男の子と女の子と一緒に、卵焼きにタコさんウィンナー、おにぎり…と、おいしそうなお弁当の中身が、展示場所いっぱい元気にはしゃぎまわる様子が、とっても楽しげです。とってもかわいいのに、とってもおいしそう…。見るたびに、思わずお腹が鳴りそうな、素敵なお弁当でした。



8月

【テーマ】 「きょうだい」

【展示期間】 7月26日～8月21日

【担当校】 青森工業高等学校

【図書館での資料展示】

『まほうの夏』（藤原一枝・はたこうしろう/作 はたこうしろう/絵 岩崎書店 2002）や『シンデレラのおしり』（ニコラス・アラン/作・絵 とたによろこ/訳 徳間書店 2003）、『シナの五にんきょうだい』（クレール・H. ビショップ/ぶん クルト・ヴィーゼ/え かわもとさぶろう/やく 瑞雲社 1995）、『わたしたちのトビアス』（セシリア・スベドベリ/編 山内清子/訳 偕成社 1978）、『あかちゃんてね』（星川ひろ子/著 星川治雄/著 小学館 2005）など、一番身近な家族、きょうだいていいなと思えるような本や紙芝居を紹介しました。



●青森工業高等学校●

【チーム名】 美術部（8名）

【担当の先生】 橋本 芽久美 先生

【担当してくれた皆さんから】

“チームについて”
美術部のメンバーです。

展示するスペースに合わせて、デザイン画から作品を作るのに苦労しました。

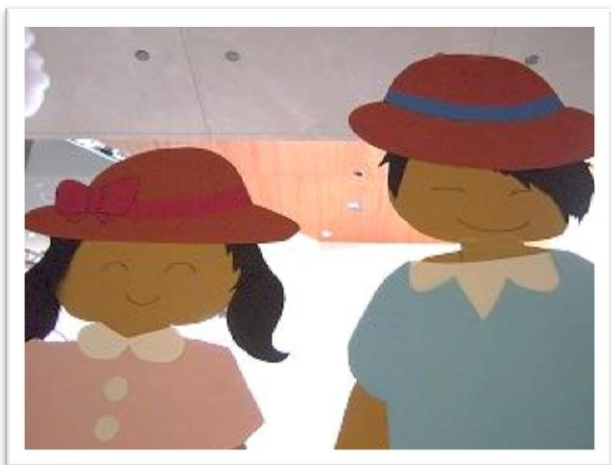
男の子の肩の部分がうまくつながらず苦労しました。

綿を作って表現した雲は、表から見ても裏から見てもふわふわになるように工夫しました。

仲の良い兄弟の様子が伝わっていたら嬉しいです。

●ちょこっとエピソード●

大きなひまわり、もくもくの入道雲、日焼けしたお兄ちゃんと妹…。児童室が、一気に夏になった作品です。入道雲は、本当にもくもく！掲示しながら、つい触りたくなるようなふわふわ感でした。妹のスカートのアップリケや麦藁帽子のリボンもかわいらしく、夏の日の中よし兄妹の楽しげな笑顔に、思わず私たちも笑顔になるディスプレイでした。



9 月

【テ ー マ】 「おおかみ」

【展示期間】 8 月 23 日～9 月 25 日

【担 当 校】 青森北高等学校

【図書館での資料展示】

『やっぱりおおかみ』（ささきまき/さく・え 福音館書店 1973）や『おいしいそうなバレエ』（ジェイムズ・マーシャル/文 モーリス・センダック/絵 さくまゆみこ/訳 徳間書店 2003）、『じろきちおおかみ』（矢玉四郎/作・絵 岩崎書店 1985）、『オオカミ王ロボ』（アーネスト・T. シートン/文・絵 今泉吉晴/訳・解説 童心社 2009）、『ゆきおと木まもりオオカミ』（いぬいとみこ/作 いせひでこ/え 理論社 1984）など、日本ではもう会えない狼の魅力に迫る本や紙芝居を紹介しました。



●青森北高等学校●

【チーム名】 チーム青北（6名）

【担当の先生】 小向 清美 先生

【希望のきっかけ】 募集要項より今回の展示に興味を持ち、是非参加させていたきたいと思ったので、希望させていただきました。

【担当してくれた皆さんから】

有名な作品の特にオオカミが目立つ場面を組みあわせて工夫しました。背景や人物にこだわったので大変でしたが楽しかったです。

雲をわたでつくったところを工夫しました。それぞれのキャラクターの表情に注目です。

木の葉を丸く切ってバラバラにはりつけたり、草を立体的に見えるように丸めてはりつけたり、雲を綿で表現したり工夫してこだわりました。大変ではありましたが、苦労した分、うまくつくれたと思うので満足です。

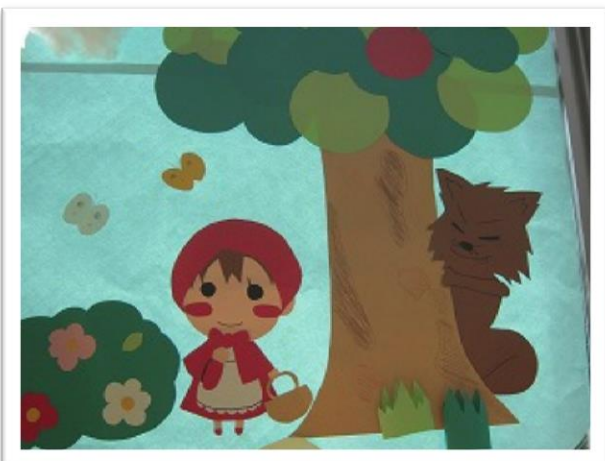
オオカミを作るのにあたり、子供受けするデザインにするのがとても難しかった。

何回も描き直しても却下されて納得のいくものがなかなかできなかった。

なかなか作業がはかどらず、すこし大変でした。雲を綿にするなど、こだわっていたようです。

●ちょこっとエピソード●

「赤ずきんちゃん」に「三匹の子ぶた」…。子ども達がよく知る童話の名場面が楽しいディスプレイになりました。丸々とした葉がかわいいリンゴの木や、立体的な草や雲など、写真ではうまく伝わりにくいのですが、とっても素敵な作品です。大忙しのオオカミさんの活躍に注目の作品でした。



10月

【テーマ】 「おんがく」

【展示期間】 9月27日～10月23日

【担当校】 弘前工業高等学校

弘前実業高等学校

【図書館での資料展示】

『おんがくかいのよる 5 ひきのすてきなねずみ』（たしろちさ/さく ほるぷ出版 2007）や『105にんのすてきなしごと』（カーラ・カスキン/文 マーク・シーモント/絵 なかがわちひろ/訳 あすなろ書房 2012）、『夜の音楽美術館』（須藤ごう/文・絵 福音館書店 2005）、『音の旅人 津軽三味線・高橋竹山ものがたり』（藤田博保/作 高田勲/画 金の星社 1986）など、芸術の秋から、音楽をとりあげた本や紙芝居を紹介しました。



●弘前工業高等学校●

【チーム名】 図書委員会&美術部（10名）

【担当の先生】 幸山 朋人 先生，岩淵 金満 先生

【希望のきっかけ】 大小のたくさんの楽器や音符をモチーフに、楽しい感じをつくり出せると思いました。

【担当してくれた皆さんから】

“チームについて”

まじめな図書委員とにぎやかな美術部員の混合チームです。

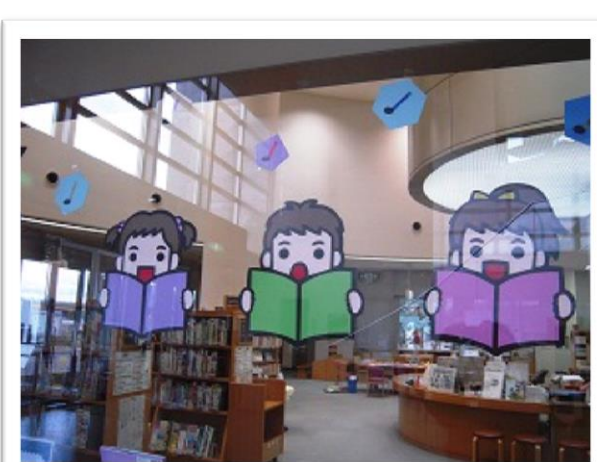
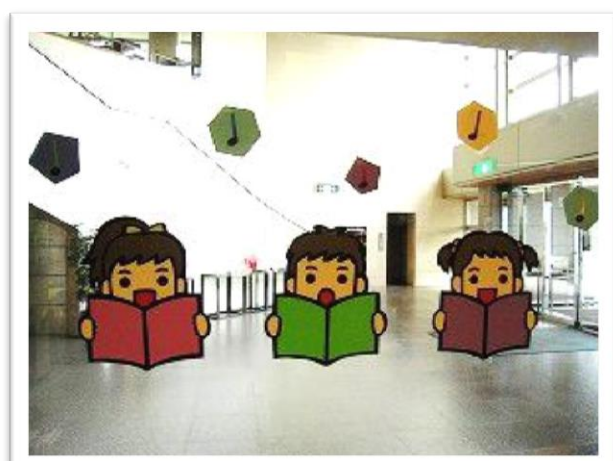
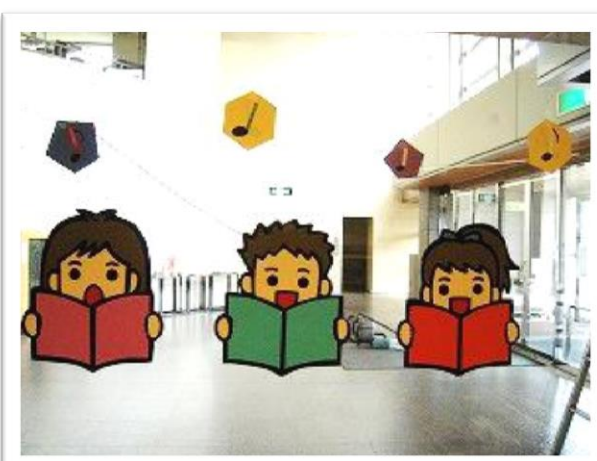
子ども達が楽しく歌っている様子を表現しました。

音符や譜面をカラフルにして、楽しい雰囲気を出すようにしました。

●ちょこっとエピソード●

弘前工業高校さんは、昨年12月の「クリスマス」に引き続きの参加です。今年も、真っ先に参加申し込みをしてくれました。

大きな口をあけて、楽しそうに歌っている子ども達は、もちろんかわいらしいのですが、そんな子ども達よりも、もっともっと楽しそうな、先生の表情に注目です！踊っているような音符も素敵でした。



●弘前実業高等学校●

【チーム名】 実業No.1の本を読み隊（2名）

【担当の先生】 成田 博実 先生

【希望のきっかけ】 先生にすすめられて。

【担当してくれた皆さんから】

“チームについて”

図書委員会の副委員長の二人で作りました。

秋の音楽を少しでも感じてもらえるように作りました。愉快的な虫たちを見ている方が楽しい気持ちになってくれたら嬉しいです。

特に、難しかったのは本のタイトルを切ることです。

●ちょこっとエピソード●

弘前実業高校さんは、昨年度10月「まほう&まじょ」、12月「クリスマス」で参加してくれました。虫たちの音楽回の様子が、とっても素敵なディスプレイです。流れるようなタイトルの本には、きちんと楽譜が書かれていて、どんな音楽なんだろう、と想像力がかきたてられます。メロディをイメージしたカラフルな毛糸や、ふわふわのフェルトでできた虫たちなど、たった二人で作ったとは思えない完成度！窓の外のエンゼルもちょうどよく、森の中のコンサートに迷い込んだ気持ちになりました。



12月

【テーマ】 「クリスマス」

【展示期間】 12月5日～12月25日

【担当校】 五所川原工業高等学校

【図書館での資料展示】

『そりぬすみ大きくせん』（マイケル・フォアマン/さく せたていじ/やく 評論社 1999）や『ちいさなろば』（ルース・エインズワース/作 石井桃子/訳 酒井信義/画 福音館書店 2002）、『パディントンのクリスマス』（マイケル・ボンド/作 ペギー・フォートナム/画 松岡享子/訳 福音館書店 2002）、『たんけんライト8 クリスマスタんけん』（クロード・デラフォッス, ガリマール・ジュネス社/原案・制作 ジャミ・プルニエール/絵 石井玲子/訳 岳陽舎 2007）など、クリスマスの物語や歴史にまつわる本や紙芝居を紹介しました。



●五所川原工業高等学校●

【チーム名】 五所川原工業高校 美術部 (5名)

【担当の先生】 安田 有希 先生

【希望のきっかけ】 HPを見て。

【担当してくれた皆さんから】

“チームについて”

美術部の1、2年生が制作しました。

楽しそうなキャラクター達と、ツリーのかわいい飾りやモビールの華やかさで、クリスマスのわくわくした感じをあらわしています。

ちなみにツリーなど所々にいる鳥さんは、私達美術部のマスコットのキャラクターです。

キャラクターや飾りの作り込みに自信があるので、ぜひ細かいこだわりを感じてほしいです。

●ちょこっとエピソード●

クリスマスツリーをはさんで、二つの物語が展開しているディスプレイです。赤鼻のトナカイの首には、ちゃんと手綱がサンタさんのところまで伸びていて、今にも窓から飛び立ちそう！雪だるまを作っているウサギさん、クマさんの表情もとってもかわいらしく、クリスマスのうきうきする楽しい感じが伝わってきます。モビールにも注目です。見どころがいっぱいの素敵な作品でした。



1月

【テーマ】 「うま」

【展示期間】 12月27日～1月22日

【担当校】 田子高等学校

【図書館での資料展示】

『サーカスのしろいうま』（石津ちひろ/作 ささめやゆき/絵 小学館 2010）や『アオさんとリンゴ』（馬場のぼる/著 婦人之友社 1979）、『うまのデイジーとねこのルイジ』（ジェレミー・スタイグ/文 小島直子/絵 赤木かん子/訳 角川SSコミュニケーションズ 2008）、『北の馬と南の馬』（前川貴行/写真・文 あかね書房 2011）、『バレエをおどりたかった馬』（H・ストルテンベルグ/作 菱木晃子/訳 さとうあや/絵 福音館書店 1999）など、今年の干支である「うま」の魅力に迫る本や紙芝居を紹介しました。



●田子高等学校●

【チーム名】 2年生図書委員+Friends (5名)

【担当の先生】 佐藤 美智子 先生, 大嶋 晃子 先生

【希望のきっかけ】 昨年と同様、1月を希望します。昨年の暮れに制作していたことを思い出すと、新年を迎える楽しさと、一年を終えるといったけじめの思いがありました。もう一度、同じ時期に意欲的に活動できると思ったので、希望します。

【担当してくれた皆さんから】

“チームについて”

2年生図書委員と協力依頼に応じてくれた友人たちです。全員2年生です。

昨年ディスプレイの作成に参加した1年生も、2年生になると忙しくなり、それでも友人の協力で楽しく完成することができました。

プラスチックダンボールのカットや、バイアステープの接着は、やはり今回も大変だったようです。

製作の最後の仕上げである、馬の瞳をビーズではりつける作業は、女子の助言により、かわいくできたと思います。

●ちょこっとエピソード●

昨年度も1月「へび」のディスプレイで参加してくれた田子高校。「来年度も是非参加します」との嬉しい言葉通り、今年も、素敵な干支を仕上げてくれました。表裏で柄の違う、かわいらしい馬に、エントランスと児童室、どちらにどちら側を見せるか、悩んでしまいました。(それくらい、どちらも捨てがたかったのです！)

さて、この馬さんたち。せっかくの干支作品ということで、今年一年間児童室に飾ることになりました。是非児童室で実物をご覧ください！



2月

【テーマ】 「きつね」

【展示期間】 1月24日～2月26日

【担当校】 田子高等学校

【図書館での資料展示】

『こぎつねコンとこだぬきボン』（松野正子/文 二俣英五郎/画 童心社 1977）、『きつね、きつね、きつねがとおる』（伊藤遊/作 岡本順/絵 ポプラ社 2011）『きつねのかみさま』（あまんきみこ/作 酒井駒子/絵 ポプラ社 2003）、『キツネとタヌキの大研究 人間との長くてふかーいつきあい』（木暮正夫/文 小暮健二郎/絵 PHP 研究所 2002）、『きつねと私の12か月』（フローレンス・リノー/著 さとうまきこ/訳 世界文化社 2008）など、賢い？ 意地悪？ 時々化けちゃう？ 色々なイメージの「きつね」に関する本や紙芝居を紹介しました。



●田子高等学校●

【チーム名】 YUTA&TOMOYA (2名)

【担当の先生】 佐藤 美智子 先生

【希望のきっかけ】 1月のテーマ「うま」の製作中です。その勢いとエネルギーで、「きつね」もぜひやってみたいです。やらせてください!

【担当してくれた皆さんから】

“チームについて”

2年生の図書委員です。いつの間にか図書室で活動するのが当たり前のようになってきたベテラン委員です。

きつねのしっぽの毛並みを再現するために工夫を凝らしました。本当は触ってほしいくらいですが、かなりデリケートな状態ですので、みなさんの目で質感をお楽しみください。完成度MAXです。2匹のきつねが寒い冬にマフラーをして元気に走る様子です。

●ちょこっとエピソード●

実は、2月「きつね」にはどの学校からも申し込みがありませんでした。HPの「ディスプレイの担当」欄もずっと「募集中」…。そこへ1月のディスプレイを作成中の田子高校から、「2月にまだ空きがあるなら…」という嬉しい申し込みが！参加してくれたのは、昨年度からずっと続けて作成してくれている男子二人組です。昨年度より、ずっとたくましくなった二人の写真を見て、感動しきりでした。先生のコメントにも、二人を見守る優しいまなざしがあふれていて、だからこそその成長ぶりなのだと感じました。

この事業で高校生と関わることができて、本当によかった、と胸がいっぱいになった2月なのでした。



高校生による、子どもの読書活動アシスト

～ みんなで児童室をきつねでいっぱいしよう！ ～

「きつねの嫁入り」をテーマに、洋服姿を青森西高等学校のみなさんが洋服姿の、弘前工業高等学校のみなさんは、着物姿の結婚式をデザインしてくれました。

みんなで楽しくぬり絵ができるよう、かわいい子ぎつねもデザインしてくれました。たくさんの子ぎつねに囲まれてお嫁さんも嬉しそう。素敵な結婚式に、ぜひご参列ください。

●青森西高等学校●

【チーム名】 西高図書委員会

【担当してくれた皆さんから】

ウェディングドレスをかくのは初めてで、デザインを考えるのに苦労しました。お嫁さんの方のキツネの表情を特にこだわってかきました。

きつねのぬり絵を描くのは大変で、しめ切りに追われながら描いていたような気がします。ですが完成したときは、とても嬉しかったのは良く覚えています。

きつねということなので、森の中の教会での結婚式をイメージしました。資料が少なく、調べるのに大変でした。





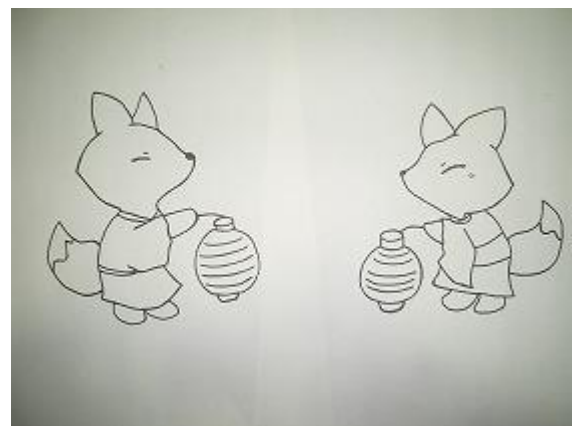
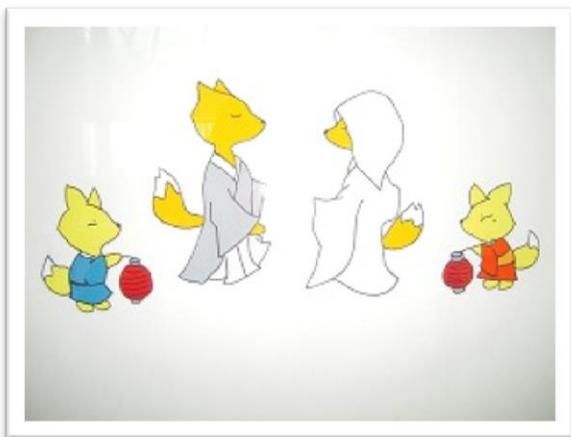
●弘前工業高等学校●

【チーム名】 図書委員会&美術部

【担当してくれた皆さんから】

大人と子どもを濃淡で表現しました。きつね一つ一つの表情が違うところに注目してほしいです。

お供の子どもをよく見ると、男の子は好奇心、女の子は憧れや恥ずかしさができるように描きました。





●ちよこっとエピソード●

ぬり絵は子どもたちに大人気でした。図書館に来るたびに描いてくれた子や、お父さんやお母さんが知らない間にぬり絵をして、出してくれた子もいました。展示を見に来たおうちの人は、びっくりしていました。集まったぬり絵は、なんと116枚！子どもたちが描いてくれたぬり絵は、大人が思いもよらない色あいで、新しい「きつねの嫁入り」のイメージに、スタッフ一同、楽しく展示ができました。

高校生による、子どもの読書活動アシスト

～ ディスプレイの貸出について ～

県内各地の高校生の皆さんが、子ども達のために作ってくれた、たくさんの素敵な作品たち。県立図書館だけではなく、県内の様々な場所で、もっと子ども達に楽しんでもらえないだろうか…？ 図書室、保育園、公民館など、子ども達のための活動にもっともっと活用してもらいたい、そんな思いで、これまでに展示したディスプレイの貸出が始まりました。

平成25年7月、田子高校1年図書委員会さんの「へび」をテーマにした作品（平成25年1月）が、田子町立図書館に飾られた他、12月には、泉川小学校と泉川保育園に、光星学院野辺地西高校、弘前工業高校、弘前実業高校のクリスマスのディスプレイが飾られました。その際、図書館からクリスマスの絵本も一緒に貸し出しましたが、子ども達は、ディスプレイと絵本をととても喜んでくれた、という嬉しい声を聞くことができました。

展示の様子は、新聞でも紹介されました。

●青森市立泉川小学校●

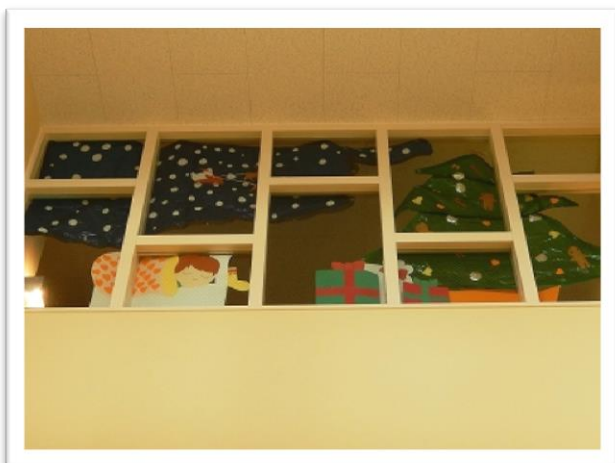
【飾られた作品】光星学院野辺地西高等学校「野西高3 3 HR」さんの作品



●泉川保育園●

【飾られた作品】弘前工業高等学校「図書委員会&美術部」さんの作品

弘前実業高等学校「チーム服デ」さんの作品



●ちょこっとエピソード●

高校生の皆さんの作品は、どれも素晴らしく、子ども達もとても楽しんでくれています。毎月やってくる展示の入れ替え時期は、これまでのディスプレイをはがすのが勿体ない気持ちと、次の高校のディスプレイが楽しみな気持ちとで、とても複雑です。

県立図書館だけではなく、たくさん子ども達に見て欲しい!という願いが実現しました。高校生の皆さんの作品が、もっともっと活用されるよう、これらかも更に広報していこうと思います。

【記事紹介】 東奥日報で紹介されました。

県立図書館 高校生が飾り手作り

本に触れるきっかけに



高校生手作りの飾りで華やかな雰囲気になった泉川小の低学年図書室。休み時間になると子どもたちが集まって本を読んでいた

児童閲覧室の飾り付けは、「高校生による子どもの読書アシスト事業」として昨年からはスタートした。今年も青森中央など県内7校がボランティアで行っている。生徒たちは目ごとに同館が集まる本に沿って、色紙やチャロハンを用い物語の世界を表現。完成品は閲覧室の窓などにディスプレイされている。貸し出しのきっかけは、「子どもたちが、本に親しみを持つように飾りたい」という同館への問い合わせがあった。同館は弘前工、弘前実、野辺地西の生徒が昨年制作した「ク

小学校への貸し出し好評

青森

県立図書館の児童閲覧室を訪れる人の目を惹きつけている県内の高校生手作りの飾り付けが、青森市内の小学校や保育園に貸し出されている。貸し出しからは「子どもたちが本に触れる機会が増えた」と好評だ。

(加藤桃子)

東奥日報

平成25年12月18日 第16面掲載

「クリスマス」を、問い合わせがあった泉川小学校と泉川保育園に27日まで貸し出すことを決めた。

泉川小学校では、低学年図書室に飾り付けたところ、利用児童が増えたという。

司書教諭の横内智子さん(55)は「図書ボランティアを務める保護者の発案で実現し

た。子どもたちに本を読みたいと思わせる雰囲気づくりにとっても役立っています」と話している。

この画像は、当該ページに限って東奥日報の記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

◆関連事業◆

朗読会及びおはなし会の記録

5 月のおはなし会

～青森県を代表する児童図書作家たち～



青森県立図書館では、毎月第2 土曜日に児童閲覧室で、絵本の読み聞かせやブックトークを行うおはなし会を開催しています。

5 月のおはなし会は、当館併設の青森県近代文学館 企画展「北畠八穂生誕 110 年」（平成 25 年 4 月 27 日～6 月 9 日）にあわせ、青森県立青森中央高等学校の生徒の皆さんと一緒に、青森県を代表する児童図書作家の作品紹介と読み聞かせをしました。

日 時：平成 25 年 5 月 11 日（土） 午後 2 時～2 時 30 分

会 場：青森県近代文学館ロビー（青森県立図書館2 階）

朗 読：青森県立青森中央高等学校（保育選択） 3 名

内 容：青森県を代表する児童図書作家作品の紹介・読み聞かせ

担当教諭：木下 和子 先生

【取り上げた作品】

紹介・読み聞かせした作品は、青森県出身の児童図書作家の作品の中から、青森中央高等学校生徒の皆さんが選んでくれた作品です。

津軽弁で語られる昔話『なんげえはなしっこしかへがな』（北彰介/文 太田大八/絵 銀河社 1979）や棟方志功の幼少期を描いた『かじやの鬼コ』（北畠八穂/文 関野準一郎/絵 国土社 1978）のゆっくりと語りかけるような読み聞かせに、参加した子どもたちがおはなしの世界に引き込まれている様子が印象的でした。

青森放送アナウンサーと高校生による 夏休みおはなし会

読みきかせ活動の一環として、小学校等の夏季休業期間中に、青森放送（RAB）アナウンサーと高校生ボランティアによるおはなし会を当館児童閲覧室おはなしコーナーで実施しました。

日 時：平成 25 年 7 月 30 日（火）・31 日（水） 午後 2 時～2 時 30 分

実 演 者：青森明の星高等学校 放送部員 各日 3 名（計 6 名）

読んだ絵本：21 日 『うしろにいるのだあれ』（ふくだとしお/さく 新風舎 2003）

『もこもこもこ』

（たにかわしゅんたろう/さく もとながさだまさ/え 文研出版 1988）

『ぐぎがさんとふへほさん』

（岸田衿子/さく にしむらあつこ/え 福音館書店 2009）

22 日 『しろくまちゃんのホットケーキ』

（わかやまけん/え 森比左志/著 わだよしおみ/著 こぐま社 1974）

『バナナじけん』（高畠那生/さく BL 出版 2012）

『ぼくのパパはおおおとこ せかいいちのパパがいるひとみんなに』

（カール・ノラック/文 イングリッド・ゴドン/絵 いずみちほこ/訳 セーラー出版 2006）

担 当 教 諭：松原 善幸 先生



7 月 3 0 日（火）



7月31日(水)

●ちょこっとエピソード●

明の星高校放送部の皆さんは、全国大会に毎年出場していることもあり、声が通っていて、とても聞きやすい読み聞かせでした。

笑顔の素敵な高校生の皆さんの読み聞かせに、子どもたちは、じっくりと聞き入ったり、笑ったりしながら、絵本の世界を楽しんでいるようでした。

寺山修司作品朗読会

～青森高校図書委員と田中知子さん(NHK 青森放送局キャスター)による～



当館併設の青森県近代文学館の特別展「寺山修司没後30年」(平成25年7月13日～9月8日)を記念し、「寺山修司作品朗読会 ～青森高校図書委員と田中知子さん(NHK 青森放送局キャスター)による～」を青森県近代文学館ロビーで開催しました。

青森高校の皆さんが、寺山が青森高校時代に読んだ俳句を朗読し、自分の好きな理由とともに紹介してくれました。また、田中さんは、高校時代の寺山が俳句にのめり込んでいく様子を述べた「十七音」を朗読してくれました。

日 時：平成25年9月1日(日) 午後2時45分～3時15分

朗 読：青森高等学校図書委員の皆さん 6名

田中知子さん(NHK 青森放送局キャスター)

朗読作品：寺山の青森高校時代の俳句、及び「十七音」

担当教諭：工藤 知明 先生

●ちよこっとエピソード●

寺山の後輩にあたる青高生が、大先輩が高校時代に詠んだ俳句を、好きな理由とともに朗読してくれました。時を越えてなお、瑞々しい魅力をはなつ寺山作品。現役の高校生の朗読で、更に生き生きと心に伝わってきました。また、田中さんの柔らかい声での朗読に、すっかり引き込まれてしまいました。

朗読の様子は、後日NHKのラジオ「ラジオ深夜便」でも放送されました。

『平成25年度「高校生による、子どもの読書活動アシスト」記録集』

2014年3月31日 発行

青森県立図書館 参考・郷土室 編

発行者 青森県立図書館 参考・郷土室

発行所 青森県立図書館

〒030-0184 青森市荒川字藤戸 119-7 電話 017-729-4311